

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【数 学】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、ヒントと解答のある「クイックチェック」を通して、より短いスパンで学んだことを確認することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、算数と数学の学びをつないだり、日常生活や社会の事象に関わる問題を発見・解決したりすることで、主体的な学びを促すような構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「深い学びのページ」では課題解決の流れをページ枠に示し、個人で思考した後、次ページで話し合い活動などを行い、学習内容を深めることができる構成にすることで、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、キャラクターの吹き出しに「同じように考えると」や「それなら」という文言をつけ、学びのつながりを自覚できるようにするとともに、より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設けることで、生徒自身がつまづきを早期に発見できるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、章の始まりや節の導入、「数学のまど」で日常との関連を図ったり、章末の「深い学び」では、解決したくなる問題場面を用意し、側注に問題解決の過程を示したりすることで、興味・関心をもって学習に取り組めるような工夫が見られる。</p>	<p>P70 P12 P103 P104 P39 P32 P19, 20 P39 P57, 58</p>
4 大日本図書	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題を補充する「プラス・ワン」等で、練習だけでなく、確かめや振り返りも行うことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、話し合い活動を通して見出した事柄を、その後の例題や練習問題の解決につなげていく学習過程が、各節ごとに丁寧に示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「利用」の課題では思考の段階に対応させて、問題発見・問題解決の流れをページの端に示し、仲間と協力して問題解決に取り組んだり、解決の過程を振り返ったりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、ウェブコンテンツを使って学習を深めることができる場面にマークをつけて、シミュレーションや動画、資料などのコンテンツを用意するとともに、付録に各学年のまとめを掲載し、使用時に教科書から切り取って冊子として持ち運ぶことができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、各章に「活用・探究」を設け、数学を学ぶことの面白さや考えることの楽しさを味わえるようにしたり、項の導入には「考えよう」を設置して、問題や疑問を見出したりすることができるような工夫が見られる。</p>	<p>P142 P120 P64 巻末付録 P64 P68</p>

11 学校図書	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、授業や家庭学習で活用できる「計算力を高めよう」を通して、多くの問題にチャレンジすることで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、「章・節のとびら」を設定して身の回りの生活や数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えることができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、節の導入で身近な題材から疑問を見つけ、「Q」では話し合い活動から目標を立てたり、「数学的活動のページ」では、問題を発見し答えに至るまでの過程を丁寧に示したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、単元導入時にスムーズにその学年の学習に入っていけるようにするとともに、「さらなる数学へ」では、1年間の学びを生かして、日常生活や社会の様々な課題を考察したり解決したりできるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、節の導入では身のまわりから問題を発見したり、発見した疑問を数理化・焦点化した問題「Q」について、側注の「見方・考え方」や生徒の吹き出しから見通しを立てて解決しようとしたりするため工夫が見られる。</p>	P34 P19 P20 P188 P128 P275 P10 P12 P50
17 教育出版	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、基礎・基本を確認できる「学習のまとめ」から活用問題の「章の問題」へと段階的に取り組むことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、小中や各学年の滑らかな接続に配慮し、章を学習する前に既習事項を振り返ったり、学び直しをしたりする問題を設定するなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「? (疑問)」から、「! (わかったこと)」を見出し、「! ? (新たな疑問)」へつなげる数学的活動のサイクルを位置付け、一人一人の生徒が問いをもって学び合えるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各章の終わりに設定した「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」→「学んだことを活用しよう」という構成にするとともに、デジタルコンテンツ「まなびリンク」で解決の手立てを示すなど、生徒の理解度に応じて学習を進めることができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「Let's Try」で実社会や日常生活等の話題を示したり、「? (はてな)」から、「! (なるほど)」を見出し、さらに「! ? (だったら)」へつながる構成にしたりして、問いをもって取り組めるような工夫が見られる。</p>	P63 P64 P72 P32 P33 P207～ P209 P14 P32

61 新興出版社啓林館	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、基本・応用問題に加えて、学習したことを自分の言葉でまとめる振り返りの場面を設定することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、節の始めの「学習のとびら」では、数学を学ぶ意義と有用性を実感し、話し合い活動を通して解決の見通しをもつことができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、2つの標識「学びをひろげるときに役立つ考え方」「解決するときの考え方」を示すことで、大切な考え方を自然に体得させ、単元末では、分かったことなどをまとめる場面を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元内にある節の学習を進めれば解決できる身の回りの問題を、すべての節の先頭に「学習のとびら」として設定するとともに、場面理解や話し合い活動、試行錯誤する活動をサポートするコンテンツなどを用意し、学習内容の理解を促すような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、章の導入や「数学ライブラリー」では数学が関係している身の回りの題材を挿入したり、側注に「同じように考える」や「範囲を広げる」などの標識を示すことで、問題を見出し、解決しようとしていたりすることができるような工夫が見られる。</p>	<p>P55下 P148</p> <p>P30 P31</p> <p>P179</p> <p>P69</p> <p>P213</p> <p>P50</p> <p>P28, 29</p>
104 数研出版	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題や「学んだことを活用しよう」等のデジタルコンテンツを各単元で豊富に活用することによって学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、各章に「ふりかえり」を設定し学び直しを行うとともに、既習事項をまとめた巻末ページで前学年とのつながりを確認できるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「Q」や「TRY」の場面を中心に、生徒と先生のキャラクターの発言から課題を別の角度で捉え、新たな疑問をもたせ、学習の内容の理解を深めようとするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本文や例を丁寧に記述し、要所で図解を用いることで、生徒自身で理解を深められるようにするとともに、教科書の内容を補充する動画や資料などの、5種類のコンテンツを用意し、多様な生徒に合った学びができるような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「TRY」や「Q」の活動場面を中心に生徒キャラクターの吹き出しから新たな学習内容の必要性を考えたり、身の回りにある事から数学的事象を見出し、様々な場面で活用しようとしていたりする態度を身に付けられるような工夫が見られる。</p>	<p>P60 P61</p> <p>P50 P63</p> <p>P188</p> <p>P144 P145</p>

116 日本文教 出版	<p>(1) 数学科の目標を達成するために、各自で取り組める多様な問題が章末に用意され、基本から発展まで習熟度に応じて取り組めるなどの学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、既習事項である基礎的・基本的な内容を必要な場面で確かめることができる「確かめ」で生徒のつまづきを未然に防ぐようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問題解決型の「学び合おう」では、自分で考え、対話を通じて学び合う問題解決の過程を示し、また巻末には「ふり返りシート」「対話シート」を用意し、考える力や説明する力を高めるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードを配置して、その上に分類を付記するとともに、生徒が苦手を克服できるように、まちがえやすい箇所に「誤答に注意！」を表示したり、「表現の例」として分かりやすい説明を具体的に示したりするような工夫が見られる。</p> <p>(4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「身近なことから」の問題を挿入し、数学を日常生活に生かそうとしたり、章の導入や「数学のたんけん」では、興味を引く身近な事柄を数学の問題として捉え、知的好奇心を高めたりするような工夫が見られる。</p>	<p>P87</p> <p>P68</p> <p>P297</p> <p>P299</p> <p>P142</p> <p>P52</p> <p>P56</p>
----------------	--	---